
哀川くんの吉井明久戦記

駄猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀川くんの吉井明久戦記

【Zコード】

N9133V

【作者名】

駄猫

【あらすじ】

スランプ改善リハビリ作ですw

原作明久が主人公がいい！とか、明久が賢いのは可笑しいとか思う人は即プラウザバツクよろしくお願ひします。この作品は最初に描いた通りスランプ改善リハビリ作なんで、何時更新する・・・とか決まってませんw

え～と、指摘（台本書き、改行以外）を受け付けていますー・どりづぞよろしくお願ひします。

第一巻プロローグ（前書き）

はい！どうも駄猫です

あらすじにも書いたとおり、スランプ改善リハビリ作なんぞ無茶は出来ませんw

指摘（台本書き、改行以外）を受け付けています！

では、どうぞ！

第一巻プロローグ

・・・あ、ジオも吉井明久でエス
ン？哀川拓也じゃねエのかつてエ？

あ、それなンだがよオ・・・朝日覚ましたら赤ン坊になつててよオ・
・・

本氣でビックリしたぜエ・・・

ちゃんとバカのフリはしつてから大丈夫なンだがよオ・・・原作的な意味で

ビックリしたこと召喚獣の外見がよオ・・・元の俺の服装なわけ
でエ

能力もそのままという大量虐殺召喚獣になつちまつた訳なンだ・・・
し・か・も・・・観察処分者という・・・人間にまで・・・

まア考え過ぎはいけねエなア・・・

さて、今日は試験なンだがよオ・・・

どうせだつたらこのままサモンサーヴァントで桃色ブロンドに召喚
された・・・くはないなア

ンー・・・凜に召喚かア？

・・・中々いいかもなア・・・アイツだつたらよオ・・・

まア、ツンデレなのが偶に傷なンだが

雄一

「おい、明久・・・今日の試験大丈夫なのか？」

明久

「うん、大丈夫だよ雄一」

え？しゃべり方が変だつてエ？

気にすンなア・・・俺だつてやりたくてこうこう話しかじやねエン

だよオ・・・

姉貴に話し方変えさせられちまつたンだよオ・・・はア、メンドクセエ・・・

だが、心中ではずっとこのしゃべり方で行くぜH
・・・つツウかもウさア姉貴が居るとき以外話し方このままでいい
ンじゃねエかア？

よしそオしょオ・・・メンドクセHし・・・

翔子

「・・・明久」

明久

「うン？何かな？翔子ちゃん」

あア・・・癖はなおりねHもンだとつけいれよオ・・・
因みに容姿は明久をつり目にしてシニカルな感じだぜH

翔子

「試験がんばってね？」

明久

「モチロンだよ、翔子ちゃん」

俺がAクラスに入つたらどオなるか楽しみなンだがなア・・・

試験までH H H H H・・・キングクリムゾンツツツ――

試験なウ・・・

さて、大分と簡単なンだがよオ・・・

メンドクセエ・・・俺は原作的にFに行かなきやなンねエだろオシ・・・

チラツと見ると・・・転生者くせエ変な金髪オッドアイがいる・・・
なンか起きたらアソツに任せよう・・・そオしよオ・・・

-カリカリ・・・-

瑞希

「はあはあ・・・」

-バタツ-

明久

「姫路さんー?」

先生

「途中退席での退席は・・・無得点扱いになるがそれでいいかね

?」

明久

「ちよつ先生!/?具合が悪くなつて退席するだけでそれは酷いじや
ないですか!/?」

・・・この言葉遣いがつらめじイザエ・・・

先生

「ルールはルールだ」

金髪

「なら、お」

明久

「ツチ、テメエ・・・何言つてやがンだア？なンなの？バカなの？死ぬの？つか死ねよ

腐れ外道がよオ・・・ふざけてンの？まじウゼエ・・・」

先生

「貴様ツ・・・バカのくせに・・・先生に何て言葉遣いだ！？」

明久

「はア？先生は尊敬出来る・・・たとえば鉄人みてエなのを言ツン
だよオ・・・」

テメエは尊敬できつかよオ・・・病室で試験とか考えねエの？」

先生

「つるさいーーーーー！」

-バキツ-

明久

「(ニヤツ)・・・コレで体罰決定ですねエ？先生エ？」

鉄人

「五月蠅いぞ！・・・どうしたんだ？吉井」

明久

「いや、其処の監督の先生に殴られただけですよオ？」

此処にいる全員が証人ですよ・・・唯僕は姫路さんがしんどそ

うで、

保健室でテスト受けさせるんじゅないですかア？と聞いただけですし」

鉄人

「ふむ・・・先生、後で職員室へ来てください
姫路はどうしたいんだ？」

瑞希

「はあ・・・はあ・・・
保健室で受けさせてもらえますか？」

鉄人

「分かつた」

・・・「レで一件落着と言いたいんだが・・・
隣で金髪オッドアイが睨んでくるンだが・・・どうしたらいいんだ
ろオナナア？」

・笑えば良いと思つよ・

・・・変な電波が来たなア・・・無視で行こう・・・
はア鬱だわア・・・

第一巻プロローグ（後書き）

あらすじ、前書きで書いたとおり、指摘（台本書き、改行以外）を受け付けています！

どうぞ気軽に感想、指摘お願いします！

第一問　「」から既に原作ブレイクしてたんだなア・・・ b y 明久（前書き）

翔子 「・・・ねえ？」

雄一 「ん? なんだ?」

翔子

「・・・・・さつき雄一が話していた大化の改新って何時のこと？」

雄一

「三年生にもなつて、まだそんなことも知らないのか？翔子は馬鹿だな～」

明久

「馬鹿は無いでしょ オよオ・・・ 雄一・・・」

翔子

「・・・・・励ましてくれるのは明久だけ」

明久

「しかもよオ、まだ習つてねエからなア？」

雄一

「覚え方は簡単だぞ？『無事故の革新』で覚えるんだ」

明久

「あア・・・なるほどなア」

翔子

「・・・・・無事故?」

雄二

「忘れるなよ? 大化の革新は無事故でおきたから - - -」

翔子

「うん」

雄二

「 - - - 625年だからな」

翔子

「・・・・・わかつた、きちんと覚えた」

雄二

「よし、忘れるなよ」

明久

「・・・雄二・・・テメエも馬鹿だろオ・・・」

雄二

「なんだと?」

明久

「無事故だから・・・645年じやボケ」

翔子

「明久・・・・・大丈夫ちゃんと覚えた、絶対に忘れない」

明久

「絶対に忘れンじゃねエぞオ？」

第一問　ここから既に原作ブレイクしてたんだなア・・・by明久

俺らが文月学園に入學してから一度目の春が訪れた
校舎へと続く坂道の両脇には新入生を迎える為の桜が咲き誇つていて
別に花を愛する程雅なヤローでもねエけれど、その眺めには一瞬目
を奪われる

でも、それは一瞬のことだ、今俺の頭の中にあるのは桜じゃなく
・・・新しいクラスのことなんだが・・・
多分Fクラスだろオ・・・テストになんて書いたと思う?
オールひらがな安定だつたぜエ

鉄人

「吉井、遅刻だぞ」

明久

「あ、鉄人じやないですか、おはようございます」

この目の前に居る浅黒い肌をしたスポーツマンのよオな先生を、
俺たちは敬意と畏怖を込め鉄人と呼んでいる

鉄人

「いま、思い切り鉄人とよんだだりつ」

明久

「まっさかア、言つてませんよ28号先生」

鉄人

「・・・お前には何を言つても無駄だつたな・・・
それにしても、普通に『おはよひ』『さこ』『』じゃないだらつ」

明久

「あ、すみません・・・えエと・・・今日も肌が黒いですね」

鉄人

「・・・・・お前は謝罪の言葉より俺の肌の色の方が重要なのか
?」

明久

「あア、そつちでしたかすみません」

鉄人

「まつたくお前といづヤツは・・・・・いくら罰を『』えても全然
懲りないな」

ため息混じりでいわれたらよオ・・・俺が遅刻常習犯みてエじゃね
エカ・・・

あ、遅刻常習犯だつたぜエ・・・原作とは違ひ色々やらかしてゐるか
ンなア・・・

鉄人

「ほら、受け取れ」

明久

「あ、どオもでエす」

因みに、こんな面倒なやり方でクラス編成を発表してゐかつつかと、

世界的にも注目された高校なモンで、何故注目されてつかつウのは、最先端システムを導入してつかつア・・・分かつたかア？

鉄人

「それにしても、すまなかつたな」

明久

「何がですかア？」

鉄人

「貴様ならどうせFだらうが・・・」

明久

「何氣にヒドイですよオ！？」

鉄人

「なら、何処の馬鹿がテストの答案全部平仮名でかいれた？」

明久

「僕ですが？」

鉄人

「はあ・・・それはともかく、あの先生のコトだ」

明久

「処分はどうなつたンですかア？」

鉄人

「辞職だ・・・体罰をしたということでな・・・」

明久

「まあ、良いですよ・・・ンじゃあ頑張つてきますよ」

第一問　ここから既に原作ブレイクしてたんだなア・・・b y 明久（後書き）

バカテスト - 化学 -

問い合わせ

調理のために火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めるとき問題が発生した。このときの問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例をひとつ挙げなさい

姫路瑞希の答え

問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険である」と
合金の例・・・ジュラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っかけ問題なのです
が姫路さんは引っかかりませんでしたね。

土屋康太の答え

問題点・・・ガス代を払つていなかつたこと

教師のコメント

其処は問題ではありません。

吉井明久の答え

問題点・・・マグネシウム鍋で料理しようと考へたこと

合金の例・・・ステンレス

(ジユラルミン鍋は、料理しているうちに、どんどん腐食していく
ますよ。)

教師のコメント

・・・痛い所ばかりをつきますね・・・

第一問　・・・俺Fクラスを舐めてた・・・

明久

「・・・・・なンなンだろオなア、このバカデカイ教室は」

去年は殆ど来たことがねエ三階に足を踏み入れると、まず目の前に現れたのは通常の五倍はあるオカといつ広さを持つ教室だった・・・・・もしや、コレがAクラスなンだろオカ・・・・興味本位でちょっと窓から覗いてみたら

洋子

「皆さん進級おめでとうございします

私はこの一年A組の担任の高橋洋子です、よろしくお願ひします」

先生居るからもう去るうか・・・と思つた瞬間、

翔子

「・・・・・霧島翔子です、よろしくお願ひします」

「・・・・・頭いいのは知つてたンだがよオ
まさか代表だとは思わなかつたぜエ・・・・
俺の幼なじみがこんなに頭良いはず・・・・・はあるか・・・・
原作なンてもオ全然覚えてねエ わア・・・唯一覚えてたのは明久＝
バカと主要キャラ数人だけだなア
・・・・・すまねエ嘘ついた秀吉しか覚えて無かつた
ンでよオ・・・どうして翔子ちゃんは俺を見てんだろオなア・・・・

まあいいか

・・・・・　ンだア？」の△クラスとは完全にかけ離れた教室はよ
オ・・・・・

歩ぐ」とに軋む腐った畳に綿のない座布団
夏には嬉しい隙間風が舞い込むつきはぎの窓
さらには足の折れかかった芸術的な卓袱台
巫山戯てンじやねエエエエエエエエエエエエ

学費は全員平等なんだから！普通の公立学校みたく普通の教室にし
てくれたらいいだろオ！
メンドクセエが入るかア

明久
「すみませ～ン、遅れましたア」

雄一

「はやく座れウジ虫やろつ

明久

「・・・いい度胸してるね・・・雄一クウウウウン？」

雄二

「いや、他の誰かかと思つて！－」

明久

「まあ、それならいいんだけど・・・・・ンで、雄一は何をして

ンの？」「

雄二

「先生が遅れているらしいからな・・・教壇に上がつてみた」

明久

「先生の代わりってことは、雄一が代表なんだ・・・・ンで、さつきから睨んでくる変な金髪チヤラ男は殴つていいのかなア？かなア？」

雄一

「やめとけ」

金髪チヤラ男

「ツケ・・・」

始まるまでポケモンしとくかア

因みに俺のパーティはラルトスとロップとカイリキーとスバメ
だぜエ

ポケモンBW?ナーソレ?

まだ、プラチナ迄だぜエ

殿堂入りしすぎてシロナさん涙目なンだぜエ・・・ククク
まア、分かる訳ねエがなア・・・

・・・おつと俺の出番かア・・・

明久

「ンン！えエ・・・吉井明久だア
まア、僕のことは『ダーリン』とでもよんね」

『『『ダアアアアアリイイイイン！…』』』

明久

「うお！？ つちよすいませンでした・・・普通に吉井か明久でオッ
ケーですウ！」

・・・ドンマイ俺・・・

まさか、こんなにバカばっかだとはおもわなかつたぜエ・・・

瑞希

「あの、遅れて、すいま、せん・・・」

あ～・・・やつぱムリだつたか・・・

体調には勝てねエよなア・・・

駄猫も結構体調崩しやすいからわかるらしいぜエ

第一問 . . . 僕Fクラスを舐めてた . . . (後書き)

どうも、若干病弱な駄猫ですw

夏休み . . . 終わっちゃいました . . .

泣きたい . . .

まあ、取り敢えずがんばりますーではー！

第二回　「 Kapoor とリアルだとキメハ・・・

瑞希

「あの、遅れて、すいま、せん・・・」

『えつ・?』

福原

「一度よかつたです、今日口紹介しているので姫路さんもお願ひします」

瑞希

「は、はいーあの、姫路瑞希と申します、よろしくお願ひします・・・」

・

小柄な身体をひざむきの位置をあげる姫路を

アレだな・・・紅一点だな・・・

でも全員が驚いてるのは其処じやなく・・・

Fクラス生徒A

「はこつー質問ですー！」

瑞希

「あ、は、はい、なんですか？」

あア～見事に驚いてンなア・・・

Fクラス生徒A

「なんで此處にいるんですか？」

聞きようによつては失礼だよなア・・・
本当によオ・・・オレだつたら聞いた次の瞬間切れてンだろオなア・
・・・
うン、きつと切れてる・・・

瑞希

「そ、その・・・振り分け試験の最中に高熱がでてしまいまして・
・・・」

Fクラス生徒A

「そう言えばオレも熱（の問題）が出た所為でFクラスに・・・」

Fクラス生徒B

「ああ、化学だろ？アレは難しかつたな」

Fクラス生徒C

「オレは弟が事故にあつたつて聞いて実力出し切れ無くつて」

Fクラス生徒D

「黙れ一人っ子」

Fクラス生徒E

「前の晩、彼女が寝かせてくれ無くつて」

Fクラス生徒F

「今年一番の大嘘をありがと」

・・・此処のクラス思つた以上に馬鹿ばつかだな・・・
アレ？頭が痛くなつてきた・・・

はア・・・本気出してAクラス行つた方が良かつたかなア?
偏頭痛が痛い・・・アレ?もう疲れたよ・・・ユウナツシユ・・・

瑞希

「き、緊張しました」・・・

明久

「あのさ・・・姫」

雄二

「姫路」

・・・コレは切れていいんだよね?

皆はびつ思つ?・・・じつこうときにすることは・・・

明久

「雄二イイ・・・?後で覚え時ヤガレ・・・」

雄二

「・・・すまなかつたアアアツア!」

明久

「其れより姫路さんは身体大丈夫なの?」

瑞希

「は、はい・・・あのときはありがとうございました」

明久

「いや、いいンだよ・・・あの人悪かったんだけ?」

瑞希

「ありがとうございます・・・」

・・・う～む・・・保護欲が・・・

そオだ！

明久

「雄一ちょっと来て

雄二

「・・・なんだ？」

「ドアの前 -

明久

「ずっと考えてた・・・つづウか『ルの為に馬鹿のまねしてたンだ
けど・・・」

雄二

「やつぱりか・・・試合戦争か？」

明久

「いけるか？」

雄一

「オレも考えてたしな・・・」

明久

「・・・なりかよつとやつた」『トあるンだけビ・・・いいかな?』

雄一

「・・・分かった・・・やつてみる」

明久

「ありがとう・・・やつその分は無じつて『トで貸し借り無しだよ
?』

雄一

「ああ」

- 教卓 -

明久

「先生・・・試験戦争の話したいんで良いですかア?」

福原

「・・・わかりました」

明久

「ありがとうございます・・・」

雄二

「はあ・・・久しぶりじゃねえか? 明久とこいつやって組むの・・・」

明久

「まア・・・楽しもうよ!」

雄二

「・・・ンンッ!」

テメエ達! Fクラス代表坂本雄一だ!

オレのコトは代表でも坂本でも、スキなようによんぐれ・・・
コイツは・・・」

明久

「吉井明久だよ・・・観察処分者だ・・・」

Fクラス生徒G

「観察処分者って馬鹿の称号じゃ無かったか?」

雄二

「コイツは別だ・・・

頭は世界中の何人もの天才が集まつても勝てないぐらいだ・・・

」

明久

「そう言ひこと・・・
ンで、皆に一つ聞きたいんだ・・・」

生徒達がゆっくりコツチを向いてきた・・・

明久

・ Aクラスの設備は冷房完備でリクライニングシートらしいんだよ・

オレが「うう」と雄一がゆっくり教室を周りは始める

雄
—

—それに比べて・・・

かで身に教る
一中へ汽船が座右図
薄汽船が女工の心合

明久・雄二

全員

「大ありじやー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

・・・雄一が演説を再び始めたのを見てオレは教室を見回した
・・・？アレンンだア？めつさニヤニヤしてンだがア・・・金髪

チャラ男くン

ハセクメノ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

明久

「金髪くん・・・一人とも嫌がつてるよ? (キモイし)」

金髮

「オレのイケメンさに嫉妬してんだな！」

明久

「はいはい、分かったから・・・

島田さんと姫路さん巻き込まれる前に向こうに行つて

美波

「あ、ありがとうございます・・・」

瑞希

「ありがとうございます・・・」

金髪

「・・・何してくれてんの？馬鹿のくせに・・・」

明久

「（ブチッ）わかつたから、嫌がつてる子にナンパは止めようね

おつと切れかけた・・・

・・・ン？雄一からのアイコンタクト？

ほ・ど・ほ・ど・に・し・ろ・よ

う～む

い・や・だ

でいつか・・・

金髪

「ウゼエんだよー」

- ガシツ -

美波

「吉井！？」

瑞希

「吉井君！？」

雄二

「・・・あああ・・・終わつたなアイツ・・・」

美波

「坂本！止めなくてもいいの！？」

雄二

「見ときな・・・アイツ・・・すんげえ切れてるぞ・・・」

明久

「はア・・・・ほんつとうにウゼエなア・・・インテリクンはよオ・
・・
せつせと手離セニ下・・・・」

金髪

「！？（なんだこれ！？原作と全然違つぞ！？あの神も他に転生者は居ないって！？）」

明久

「・・・雑魚エのにつつかかんな三トア・・・
オレにつつかかっていい三トはアイツだけなんだよ・・・殺すぞ
？」

金髪

「つ・・・（「ツチにはチートがあるんだ！）」

明久

「はア・・・・だりイ・・・もつかい言わなきやいけねエのかア？
・・・・やつさと離せ」

第二問　「 Kapoor とリアルだとキメエ・・・（後書き）

駄猫くく制裁な次回ですが・・・

一更新出来なかつた上に桜才戦記じや無いつていう・・・

拓也くくまアしようがないだろ・・・親に止められて言われまくつたンだろ？

駄猫くくはア・・・

拓也くく取り敢えず次回予告だア
切れまくつてるオレ・・・

駄猫くくどうなる？金髪くん

拓也くく名前はどうなつてんだア？

駄猫くく一応決まつてゐけど出る前に居なくなるかもw

拓也くく・・・たしかにな・・・

駄猫くくま取り敢えずがんばります！では！

第四問 アイアンクローツでも凄く痛いんだ……分かるかなア？

明久

「はア……だりイ……もつかい言わなきやいけねエのかア？
……やつさと離せ」

金髪

「脅しなんて効かないぞ！」

明久

「誰が脅しつたア？コレは命令だ……」

金髪

「なー？……テメエ誰に向かって！」

明久

「（Be kooi……落ち着け）kooiになれ袁川拓也……
もとい吉井明久）

君だよ……何回も言わせないでくれるかな？」

金髪

「ンだとオ！？おれはな……
ボクシングとキックボクシングとムエタイをしてんだよー・テメエ
みたいなモヤシとはちげえ！」

明久

「……モヤシについては見逃すとして……
テメエ巫山戯てンの？いっぽいやつたら強いとでも思つてンの
オ？」

・・・テメエは馬鹿ビンゴじゃ済まねエンジヤねエの?」

金髪

「う、うるせえ!」

・ヒヨイツ・

明久

「はいはい隙しかねエよ!」

・ガシツ・・・ギチギチ・

金髪

「うがああああああ!!痛い痛い痛いいた・・・・

・ガク・

雄二

「明久・・・なんつーかアイアンクローラーで氣絶させるつてドンだけ
だよ・・・」

明久

「ン?アレでもきちんと加減したンだけどねエ?
弱いねエ・・・翔子ちゃんのほオがもつと怖いよ・・・
いつの間にか・・・ね?分かるでしょ?」

雄二

「・・・なるほどな・・・」

美波

「吉井つてスゴイのね・・・」

瑞希

「本当にビックリしましたよ・・・でもケガがなくてよかったです・
・」

康太

「・・・」

・ツンツン・

康太

「・・・氣絶」

秀吉

「皆この状態はスルーするのじやな・・・」

・・・常識人は秀吉と康太・・・泣けるな・・・
え？俺自身はどうなのかつて？常識人な訳ねエ？だろオガ
胸はるなつてエ？とはいわれてもなア・・・
だつて英雄とタイマンはれンだぜエ？そこント「考へたら常識を逸
脱してンだろ

明久 明久
「で、宣戦布告は誰にするの？」

雄二

「・・・明久いつ」

明久

「却下」

雄二

「頼む」

明久

「却下」

雄二

「嫌ならコレを翔子に」

・・・えエ・・・婚姻届なんであンだよオ・・・
しかも丁寧に印鑑も・・・

あと、其れって俺に死ねつていッてるも同然だよなア?

雄二

「さて、どうするんだ?」

「ニヤリ・

明久

「行くよ!死にたくないよ!」

瑞希

「どうしたんですか?吉井くん」

美波

「どうしたの?吉井」

明久

「ストレスがマツハなだけだよ・・・
ボクには仲間が居る・・・身体が軽い・・・もオ何も怖くない！」

康太
「・・・それは死亡フラグだ」

秀吉

「なんというか・・・」

-宣戦布告は・・・フルボッコだつたため・・・カツト！-

はア・・・疲れたア・・・

あれもこれも全部雄二の所為だ・・・
絶対やり返してやるウ・・・

天上院に言つてやる・・・雄二が浮氣してたつて言つてやる・・・
そしてアイアンクローされちまえ・・・

あ、天上院つつウのは雄二の従姉妹のキンパツ美人・・・
しかしへ・・・フルネームは天上院優佳・・・
俺でさえビビつた・・・幽香と優佳・・・ドウという共通点だなア

明久

「てな訳で行つてきたよオ・・・（ボソ）後で覚えとけクソ雄二天
上院に浮氣したって言つてやる」

おっとオ、くちから出ちまつたア・・・
氣イつけねエと・・・

雄二

「（ゾクゾクゾクウ）！？・・・よし、なら昼休みに屋上にて//
一ティングだ
康太、秀吉、姫路、島田、それと明久だな」

明久

「わかつたよ」

第四問 アイアンクローフでも凄く痛いんだ… 分かるかなア？（後書き）

駄猫：はるるーん！なんとか更新できました～

拓也：なンだよ、その挨拶…

駄猫：ノリ？

拓也：聞くなよ、メンドクセ…

駄猫：結局キンパツくんが前に出る前にモブ化ww

拓也：名前何にするつもりだったんだア？

駄猫：霧夜 聖斗で名前

拓也：…本編で出さなくてよかったですア

駄猫：だね～w

拓也：次回はどうすんだア？

駄猫：レッジゴーvsDクラスだよ…がんばりますーではー！

番外編 霧島翔子の突撃隊の吉井さん！（前書き）

何故か100000円を超えたのでやつてみますw

番外編 霧島翔子の突撃隣の吉井さん！

・・・初めまして霧島翔子です
今日は、明久の家に工・・・・じゃなくて、薄い工・・・でも
なくて
取り敢えず明久がきちんと生活しているか確認しに行きます
鍵は玲さんにきちんと貰っているから入れるのです
と言うわけで一度インター ホンを押します・・・明久がいたらまた
次回です

・ピーンポーン・・・・

大丈夫のようですね・・・では、入ります

-キィイイ・・・バタン-

翔子

「・・・お邪魔します」

取り敢えず目的の明久の部屋に行くまで彼を
何故好きになつたか・・・と言つことを軽く説明しますね
先ず初めて出会つたのは7年前
私は転校生だつたんです
・・・誰とも喋ることが出来なかつた私に明久は話しかけてくれて、
其れがうれしくて、私はドンドン明久に話しかけていつたんです
そななる日、雄一と明久が上級生に何か話しかけられてるのを見
たんです

何か嫌な予感がしました・・・

その出来事があった日から数日・・・嫌な予感が当たつたんです

忘れ物をしたことに気づいた私は教室に戻りました
そうすると上級生達が明久と雄二の持ち物に落書きをしようとしていました

其れを止めるために「止めて！！」と言いました
すると彼らは「いつもアイツ達の近くに居る女子か」と言つて
私を無視して落書きをはじめようとしていました
だから私は飛びつきました

すると、上級生達は私に標的を変えました
頭が真っ白になりました・・・唯怖くて・・・
でも、そんなとき明久が来てくれたのです
それをきっかけに明久の「トドがすきになつたんだと思います・・・
・・・ちょうど明久の部屋につきました

と詰つわけで、まずはベッドの下

・・・やつぱり無い・・・
次に天井裏・・・も無い
となると・・・あつた・・・やつぱりJCの後ろ
どんなのが好きなんだろう?
一冊目のは黒髪で巨乳・・・二冊目も同じく・・・

-全部見終わるまでカット！-

コレが最後・・・

まさか30冊以上あるとは思わなかつた・・・

明久の好みは黒髪で美人系で巨乳・・・

・・・コレはチャンス?

最後は・・・アルバム・・・

・・・だれ?この黒髪の美人一人とアルビノの男性・・・

男性の方は明久に似ているような・・・

-ガチャン-

明久

「お・・・あいてるつつウコトは翔子ちゃんが居るつてコトか・・・

」

早く片付けなきやつて・・・

翔子

「きやあ!?」

明久

「おつと、大丈夫?翔子ちゃん・・・つてその手に持つてるの・・・

」

翔子

「・・・エ・自主規制・だと思つて見たらアルバムだった
みちやいけないモノだったならゴメンなさい」

明久

「エロ本つて・・・なンで探しているのかは分からぬけど・・・

翔子

「エロ本つて・・・なンで探しているのかは分からぬけど・・・

「・・・なんで土下座しているの？」

あとは燃やすだけだから、大丈夫だよ？」

明久

「スイマセン！お願いだから燃やさないでエー！」

翔子

「・・・今日は私も悪いから見逃す・・・
でも・・・つぎ増えてたら・・・わかつてる？」

明久

「うん・・・あ、『』飯食べていく？」

翔子

「・・・お皿葉に甘えさせて貰いつ」

明久

「わかつたよ」

- 飯調理中なんでカット！ -

明久

「・・・昼から暇だから、遊びに行く？」

翔子

「・・・え？いいの？」

明久

「うん・・・今日ぐらい勉強しなくても大丈夫だしね」

翔子

「・・・わかつた着替えてくる」

明久が私を誘つてくれた・・・

コレはチャンス・・・告白・・・はむりだけど・・・

番外編 霧島翔子の突撃隣の吉井さん！（後書き）

駄猫くく次回、「番外編 翔子と明久と二人デート」

拓也くく俺の聖典が危なかつたぜ！

駄猫くくお前でも持つてたんだな・・・

拓也くく男なら一冊や三十冊

駄猫くく一冊と三十冊って全然違うぞ！あと、俺は持っていないぞ！

拓也くく・・・

駄猫くく・・・

拓也くく次回もよろしく頼むぜ！

駄猫くく・・・強引にいったなア・・・

番外編 翔子と明久と二人デート

つウ わけで吉井明久だア · · ·
いきなりでスマネエが · · · 画面の向こうのお前らは美人の幼なじ
みがいるつてどオ思読者様う?

嬉しい? k t k r? もしくはギャルゲ読者様じやあるまいし、かア?
まア · · · 駄猫はずつと「パルパルパルパルパルパル · · ·
つて言つてやがるがア · · ·

いやさ · · · 実は、こんな美人が幼なじみで俺は友達が少なくなつ
たンだよ

大抵は嫉妬してにらんできたり · · · まア、別に怖かねエンだがな ·
· ·
で、まア · · · 美人な幼なじみけん友人がいるコトで理不尽な目に
あうンだよ · · ·
でも · · · セ · · · おしゃれした姿見たらもつ全部吹きとンじまう ·
· ·
だから俺的にはやっぱり幸せだな!

翔子

「 · · · 明久お待たせ」

明久

「待つてないよ」

翔子

「 · · · それじゃ、何処行く?」

明久

「ン~ · · · 映画でも見にいこつかア」

翔子

「・・・分かった」

康太

「・・・ただいま吉井が家から霧島翔子をつれて出てきた」

雄二

『取り敢えずつけてくれ』

康太

「・・・了解」

雄二

『頼んだぞ』

明久
「さて・・・と、今日は僕のおじりだからねー!」

翔子

「・・・いつもそうだけど、お金大丈夫なの?」

明久

「ゲームとかはネット内のフリゲとかをしてるから、いついつとき
に自由に使えるんだよ」

翔子 「・・・なら、アレみたい」

明久 「どれどれ？」

・・・地獄の默示録？ 3時間23分・・・?

翔子 「其れを二回」

明久 「其れは断固拒否で」

翔子 「・・・明久はひどい」

明久 「ココで6時間も過ごしたくないよ！」

翔子 「・・・なら、明久はどれがいいの？」

明久 「・・・アレかな・・・」

翔子

「・・・ネギま!-?・?」

明久

「・・・もの凄くみなきや いけなによつなきがするんだよ・・・

翔子

「電波?」

- 結局、地獄の默示録を一回見ました -

明久

「ゲーセンでも行こうか」

翔子

「・・・うん」

さて、地獄の默示録だけど・・・
なんというかグロかつた・・・牛殺されてた・・・
・・・何故翔子ちゃんはアレが見たかったんだろうか?謎だ・・・

康太 「・・・ただいま地獄の默示録を見ている」

雄二 「何故に?』

康太 「・・・分からない」

雄二 「報告有り難う、引き続き後をつけてくれ』

康太 「了解」

明久 「ゲーセンと言えばクレーンゲームだよね」

翔子 「・・・そうなの?』

明久 「そりなんだよ・・・さて、翔子ちゃんはどれが欲しい?』

翔子

「・・・あの二つ」

明久

「了解、了解つとオ」

「ウイーン・・・ガ・・・ガガガガ・・・ガコン・

明久

「よつしゃ、同時ゲット！」

翔子

「・・・片方は明久の」

明久

「おそろいだね？」

翔子

「・・・うん！」

雄二
『どうした！？』

康太
「・・・クレーンゲームをして・・・ブハツ！？」

康太

「・・・なんでも無い」

雄二

『そ、 そつか・・・』

康太

「引き続きスニーーキングする」

- 6時まで遊びました -

明久

「よつし、 ンじや飯食べにいこつか

翔子

「・・・そんなことまでいいの？」

翔子

明久
「うん」

「・・・有り難う

「・・・有り難う

明久
「いやいや

コロまで来たら康太もついてこれない筈・
・
アイツが金を持っているはずねエしなア・
・
それにしても帰った
ら雄一の阿呆はコロス

明久
「じゃ、いこつか

翔子
「・・・うん」

康太
「・・・これ以上はムリ」

雄一

『じ苦勞だった・・・コレでアイツの弱みを』

康太
「・・・氣をつける」

- 夕食食べました -

明久

「ふう、おなかいっぱい」

翔子

「・・・うん・・・あ、あの明久」

明久

「何かな?」

翔子

「今日は有り難う」

- チュ -

明久

「・・・へ?」

翔子

「また明日」

・・・函・・美・・う・・か・・と・・う・—・美・・う・・か・・?

番外編 翔子と明久と二人デート（後書き）

駄猫くく案外弱い拓也くんw

拓也くく・・・（ボー）

駄猫くくうわ！？張り合ひなさすぎ・・・
てなわけで今回は咲夜さんに来ていただき・・・ませんでし
たが

悠人くんに来ていただきました♪

悠人くくまあ、紹介に預かつたとおり悠人や

駄猫くくで、最近どう？

悠人くく調子ええで！

駄猫くくそりや良かつた

悠人くくうむ

駄猫くくんじや、そんな調子の良い悠人くんの次回予告まで・・・

3・2・1・Q

悠人くくえぐ次回は本編や！期待しどきや！

駄猫くく期待しないでくださいw

悠人くくンで、Fate/stay night -ちょっと異世

界までお使いしてきた英雄

くん・もよろしく頼むわ！

駄猫くくハイ、カット！では次回もよろしくお願いしますー！

第五問 作戦会議・・・雄一の地獄もあるよー（前書き）

駄猫くく今日は作戦会議だけではなく、ロクラス戦がおわってから
が本編な・・・

おまけが本編回ですw

拓也くくついにあの秘密兵器と雄一のヒロインがでるンだな

駄猫くくでは・・・本編じつぞー

第五問 作戦会議・・・雄一の地獄もあるよ！

明久

「さて、そんなこソなで屋上だよ」

雄一

「また明久が変になりやがつた・・・」

康太

「・・・大丈夫か？」

明久

「・・・電波を受け取っちゃつたンだから仕方無いじゃないか・・・」

「

本気で電波だけは回避出来ないからな・・・

「オしたらいいんだろオな・・・」

秀吉

「大丈夫じゃ、明久・・・わしにも時々くるからな・・・」

明久

「秀吉・・・！」

- ガシツ -

瑞希

「・・・何故か絵になるんですね・・・あの二人」

美波

「本当ね・・・さながら美男美女のカップルね・・・」

雄二

「お前ら・・・其れ△クラス代表相手には絶対言つなよ?」

美波

「?・?・まあ、わかつたわ」

雄二

「お~い、そろそろ会議はじめんや」

明久

「あ、うん~解」

秀吉

「分かつたのじゅ」

さて・?

明久

「僕がキチンと今日の午後に△クラスに開戦予定と告げてきたよ」

雄二

「よしー。」

秀吉

「なら、先に昼飯と晩飯は2食喰つてるからなア?」

あ、そオいや俺はちやんと飯は2食喰つてるからなア?」

え？ 3食じゃないのかつて？

・・・いや、前喰つてたら変に頭が回つたからコミッター外す時以外は2食にするよオにしたンだよ

例えばだなア・・・株弄くるとか、今回みたいな試召戦争とかだなア・・・

ちゃんと俺は金使つてるンだゼエ？ 翔子には仕送り分だけみていなこといつたけど

俺は完全に自分で稼いでるゼエ？ 大体年に 億ぐらい

雄二
「おっと俺はちょっと用事あるから先にくつといてくれ」

明久
「なるほど、愛妻弁当だね・・・でも、その必要はないよ（ニカア）

」

雄二
「・・・・・・（ゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾ）」

ささやかな仕返しを・・・ちやつかりメールで天上院に浮氣したつていつたしなア

さて・・・・・ジオなるかなア？

・ズガン！ -

優佳

「明久君連絡有り難う・・・やあ、雄二くん・・・さて、どういうコトか説明してくれるかな？ ああ！？ ねえまずや、鼻の下のばしていたつてどういうコトかな？ 其処のちょっと巨乳な女の子に鼻のばしてたつて聞くし・・・明久君が言うには翔子ちゃんの婚姻届も

つてたつて言つじやないか・・・ねえどうこいつとかな?早く教えてくれないかな?そうじやないと流石の僕でも切れるよ?駄雄二くんふるえてるのかい?まあ、自分が悪いのに謝らないっていうのもどうかと思つしね・・・駄雄二くんはそこんとこひどい想つのかな?」

・・・怖エよ・・・まさかだつたよ・・・

口口まで来るのか・・・あのお嬢様みたいのがこいつ風になるのか・・・

雄一
「あ、あれは・・・」

優佳

「アレは何かな?ねえ?なんなの?早くしないと絶望先生の'J'で吊すよ?早く答えてよ」

雄二

「は、はい・・・あれは・・・明久を脅すためにしました!」

優佳

「そりかい・・・で?そこのちょっと乳な娘に鼻を伸ばしてた云々はどうなのかな?早く教えてくれないかな?答えられないんだつたら・・・駄雄二の家にプチプチ送るからね」

・・・止めてあげてくれ・・・呼ンだの俺だけ涙が止まらないぜ
エ・・・

しかも、呟ふるえてやがるし・・・口口は俺が止めるか・・・

明久

「ね、ねえ優佳ちゃん」

優佳

「何かな？明久君？」

明久

「そろそろ止めてあげて・・・見てられなくなるし・・・ね？あと、ミーティングとかあるし・・・ね？今日の所は許してあげて？」

優佳

「・・・まあ、君がいうなら・・・駄雄一君・・・次は無いからね？」

？

雄一

「あ、おお、あ・・・

優佳

「それと弁当だよ」

雄一

「す、すまねえ・・・

・直立ち直るまでカット・

雄二

「まあ・・・何だ？すまなかつた」

秀吉

「わしらも氣絶しかけておつたし・・・いまいち何がおいつてたのか覚えておらんのじゃよ」

康太

「・・・（「ク」）」

美波

「・・・あ、そういうえば一つ気になつてたんだけど、どうしてロクラスなの？
段階を踏んでいくならEクラスだろ？し、勝負に出るならAクラスでしょ？」

雄二

「考へ有つてのことだしな」

明久

「どうせや、Eクラスを攻めない理由は簡単だし戦うまでもない相手だからでしょ？」

雄二

「そりだ、で康太・・・オマエの周りにいる面子を見てみる」

康太

「・・・？」

雄二
「で、どうだ？」

・・・その聞き方どうなンだろオナ・・・

康太
「・・・美少女が三人と馬鹿が一人と最恐が一人」

・・・「レはフリなのかねエ？」

明久
「誰が馬鹿だつて（ニコッ）」

雄二
「誰が美少女だ！」

康太

「（ブンブンブン）」

うわア・・・やっぱ慌てるよな・・・
ま、取り敢えず話しを進めるかア・・・

明久

「時間が勿体ないしそろそろ必要なこと言おつよ、雄二」

雄二
「だな・・・ま、要するにだ・・・明久は・・・バグだとして」

誰がバグだ・・・誰が・・・

雄二
「姫路がいるし今、正面からやり合ってもEクラスには勝てるAクラスが目標である以上はEクラスなんかと戦つても意味が無いことだ」

明久
「初陣だし、派手にやつて今後の景気つけにしたいんでしょ?」

雄二
「ま、そういうことだ」

明久
「ま、どうせ打倒Aクラスのプロセスなんでしょう?」

雄二
「そうだ・・・てか、明久は俺が言いたいことを横取りするよな・・・」

・

明久
「まあ、いいじゃん」

康太
「・・・勝てるのか?」

明久
「ハハハ・・・負けるわけないじゃん・・・」

雄二

「俺は本気で策を考えるし、お前らが俺たちに協力してくれるなら絶対に勝てる」

明久・雄二

「いいか？お前ら、ウチのクラスは最強だ！」

美波

「……いいわね！ 面白そうじゃない！」

秀吉

「そうじゃな、Aクラスの連中を引きずり落としてやるかのー！」

康太

「……（グッ）」

瑞希

「ガンバります！」

打倒Aクラス……普通のヤツ達からしたら可笑しくなったよ
しか聞こえねエ……
だが……0%と100%はねエ……やる前に諦めるのは本当の
馬鹿のこと……
やア……本気をだすかねエ……

-Dクラス戦明久の出番までカット-

明久

「やつと出番かア・・・さて、殺るか」

雄二

「いつちよ暴れできな」

明久

「了解つてなア・・・さて行くぜエー！」

ズドン！ -

明久

「おい、先生！Fクラス吉井明久がココに居るDクラス全員に戦闘を挑む！」

科学教師

「承認します！」

明久

「試験召喚！」

科学

吉井明久 9999点

VS

Dクラス20人 23352点

DクラスA

「・・・は？」

明久

「ここから先は補修室まで一方通行だア・・・とつとと逝きやがれ
エエエエー！！」

-ズガン-

鉄人

「戦死者は補修！！」

明久

「・・・クカ・・・クカカカカカ！いいねエ、いいねエ、最高だ
ねエ！」

久々の・・・まあ生身じやねエけど・・・戦闘は楽しいねエ！！

DクラスZ

「・・・まるで死神だな・・・」

Dクラス a

「そうね・・・」

清水

「ひ、ひるまづ行つてくださいー！」

明久

「効くかよオ！・・・島田ア！雄一と一緒にDクラスの首とりやがれエ！」

美波

「わ、わかつたわ・・・」

73

・明久が掃除し終わるまで・・・カット！・

明久

「ふウ・・・終わったア」

おっと・・・姫路さんの声聞こえたし終わつたかア？
男共のうるせエ声も聞こえたしな
さて、俺も向こうに行くかア

- 到着までカット -

明久
「よオ雄二」

雄二
「・・・今はそつちか・・・」

明久
「どオも興奮が收まらなくてなア・・・」

平賀

「・・・まさか姫路さんがFクラスだなんて……信じられん」

瑞希

「さ、わつきはすみませんでした」

平賀

「いや、謝る」とはないよ、全てFクラスを甘く見ていた俺達が悪いんだ

・・・それとあの吉井君があの点数だなんて・・・」

明久

「アレがMAX表示できる数値らしいからなア・・・」

平賀

「そ、そうかい・・・さて、ルールに則つてクラスを明け渡そう
ただ、今日はこんな時間だから、作業は明日で良いか?」

雄二

「いや、その必要はない」

明久

「だな」

平賀

「・・・え?」

明久

「Dクラスの設備には一切手を出すつもりはねエゼ?
俺らの最終地点はAクラスだしな」

雄二

「その代わりと言つてはなんだが、二つ条件がある」

平賀

「・・・まあ、ウチとしてはありがたいんだが・・・何をしたらい
いんだ?」

雄二

「そんな大したことじゃない

一つ目は、俺が指示を出したら、窓の外にあるアレを動かさなく

してもらいたい・・・それだけだ

平賀

「Bクラスの室外機が

雄二

「設備を壊すんだから当然教師にある程度睨まれる可能性もあるとは思うが、

そう悪い取引じゃないだろ?」

平賀

「それはこちらとしては願つてもない提案だが、なぜそんなことを?」

雄二

「次のBクラス戦の作戦に必要なんでな」

・・・さて

明久

「僕からも一ついいかい?」

平賀

「何かな?」

明久

「僕のことを広めないで欲しい

平賀

「・・・なるほどね・・・わかった」

明久
「有り難い」

雄一
「もひ、いいか? タイミングについては後日詳しく述べ
一いつ月は二二ヶ月間 Fクラスに宣戦布告しない」とだ、今日もひ
行つていいぞ」

平賀

「ああ、ありがとひ・・・一いつ月の条件も呑むよ、お前らが△クラ
スに勝てるようひに願つていいよ」

雄一

「無理するなよ、勝てつこないと思つていいだひ」

平賀

「いや、彼がいるからね・・・」

雄一

「アイツは普通トじやないしな・・・
よし、皆一今日はじこ苦労だった!」

明日は消費した点数の補給を行うから、今日のところは帰つてゆ
つくりと休んでくれ! 解散

-おまけ-

「・・・

- ふちあひあひあひあひあひあひ -

雄二

「・・・何だ? 「これは・・・
え~と? 神楽? 誰だそれ? え~と・・・
『人の恋路を邪魔しようと/orする人はスレイブールに引かれればい
いんだよ!』? ?

・・・何がはいつてるんだ? ・・・誰だ・・・こんな惨い」とを
するやつは! -? -

そこにはいつてたのは大量の梶包材のプチプチ・・・と腐臭

雪乃

「あ、おかえりなさい・・・『飯出来てるわよ』

雄二

「あ、ああ・・・

・・・見た目は普通の飯・・・大丈夫の・・・筈

雄二

「・・・いただきます
モグモグ・・・うむ・・・中々おい・・・」

- バタン -

第五問 作戦会議・・・雄一の地獄もあるよ！（後書き）

駄猫くくといふわけで、裂やんさんトコの睦月くんから貰つた
梱包材のプチプチを大量に、腐ったザリガニをきちんと渡しました

拓也くく・・・雄一大丈夫か？

駄猫くく大丈夫ギャグ補正かかるからb

拓也くく今日は本氣で雄一不幸回だなア

駄猫くくま、ええじゃないか・・・さて次回は？

拓也くくBクラス戦手前までだなア

駄猫くく次回も頑張ります！では！

第六問 次に目を覚ませば元に戻るから

おっとオ・・・今日はもう一回更新すンのかあのバカ・・・
しかも課題終わってないとか言つてたのによオ・・・無茶しやがつ
てエ・・・

さて、Dクラス戦が終わって夜だ・・・
さて、今日は翔子ちゃんがウチに来ているンだが・・・
あの後雄一が音信不通なンだ・・・どうなつてんだろオな・・・

翔子 「・・・明久・・・」飯出来た

明久 「ン・・・有り難うね」

翔子 「・・・ひうん」

- 飯中はカット -

翔子

「・・・そう言えばあの金髪の人どうなったの?」

明久

「失禁して、何か泣いてどうかいつたんだよ」

翔子

「・・・」

明久

「まあ、そオいう感じになるよね」

翔子

「・・・其れと今、女子高生が何者かに襲われてるらしい」

明久

「・・・今日は僕ン家に泊まつてってね・・・
あ、そオだ・・・ちょっとコンビニでW・i・Pポイント買つてくる
よ」

翔子

「・・・いってらっしゃい」

明久

「ちやんと鍵しめといでね」

翔子

「・・・うん」

さて・・・久々に哀川拓也の時と同じ口トでもするか・・・
セイギノミカタつてなア・・・

明久

「さて・・・と、適当に・・・とアレは秀吉か?」

秀吉?

「・・・アナタ誰?」

明久

「・・・若干声違つから・・・あア!姉の方か」

木下姉

「・・・そういうアナタは吉井君ね?代表からよく話を聞いてるわ

明久
「へエ・・・あ、今、女子高生が何者かに襲われてるらしいから氣
イつけろよ?」

木下姉

「あ、うん、忠告感謝するわ」

凜と同じ臭いがする・・・
・・・あ〜なるほど!猫かぶつてんのか!!

明久

「ンじゃ、氣イつけて帰れよオ」

さて、見回り再開かねエ

後、見回つてないところつつたら・・・学校かア?

・・・まア行くつきやねエなア・・・

・・・でも、鉄人いるから大丈夫じゃねエ?・・・だよねエ・・・

あの人多分スネークだしなア・・・

- 数十分後 -

『キヤアアアアア!』

叫び声!?

聞こえた方向は・・・アツチだな・・・

久々に翼でも広げてみるかア・・・

- バサツ -

・・・やっぱ白いな・・・
さて・・・と・・・行くぜエ!

・・・おつとオ・・・て・・・ちよー?金髪じゅねエかー!?

明久

「その女性から離れる!—」

金髪

「何!—?」

-ズザザザザザ-

明久

「・・・俺参上」

女性

「・・・だ、誰!—え?何で翼!—?」

明久

「メルヘンで悪かつたなア・・・はア・・・コンプレックスなのに
よオ・・・さて、そこの女性・・・取り敢えず逃げる!全力で!・・・
・お前・・・最低だなア・・・何してンだよ・・・彼処で失禁して
そつから逃げ出して、ンで?次は女子高生を襲う?巫山戯てンじや
ねエよ・・・もオバカじやすまねエ”クズ”だなア・・・さて、た
とえ相手が神様だろとも、俺の名前は哀川拓也吉井明久・・・俺の前では
悪魔だつて全席指定、正々堂々手段を選ばず真っ向から不意討つて
ご覧に入れましょオ・・・さア・・・殺して解して並べて揃えて晒
してやんよ

女性
「わ、わかつた」

金髪

「ツヘ・・・俺の剣製にかて・・・グガアアアア！？」

-グサツ・・・グサグサグサグサ -

拓也^{明久}

「あア？何がお前の剣製だア？剣製はエミヤシロウのみが持つエミヤシロウだけの生き様なんだよ・・もオ、クズにやる言葉はねエ・・・まア、許すだの許さないだの、そういう問題じやなかつたなア・・・許容云々以前の問題なんだよ、それはよオ・・・犯すコトは悪だ、断言しよオ・・・人を犯したいという気持ちは史上最低の劣情だ・・・性欲？はア？巫山戯ンな・・・他人の心の死を望み祈り願い念じる行為は、どうやっても救いようのない悪意だゼエ？クズが・・・あア？何故つて顔してやがるなア・・・なぜならそれは償えない罪だからなア・・・罪も贖罪も出来ない罪悪に、許容も何もへつてくれも、そんなことはこの俺の知つたことじやないなア・・・人を犯した人間はたつた一人の例外すらなく地獄の底辺まで墮ち沈むべきなんだ・・・」

金髪

「えらそつに・・・死ね！」

拓也^{明久}

「お前がな」

-グギヤ -

金髪

「う、腕がああああああああああああああ！」

拓也^{明久}

「・・・ もオ、いい加減楽になれ・・・」

-ブチヤツ -

明久

「ただいまア」

翔子

「・・・お帰り・・・お風呂一緒に入る？」

明久

「なンでなのかな！？」

翔子

「・・・どこか寂しそうな顔してるから・・・」

明久

「あ・・・」

翔子

「・・・包容力が欲しいのかな?つて」

明久

「それ、ちがつ」

翔子

「違うの?」

明久

「その考え方・・・

-おまけ-

雄二

「ツハ!?」

優佳

「やつと起きたんだね・・・心配したんだよ?それにしてもこんなラブレター初めてだよ・・・僕待ってるからね?君が18になるの

「

起きたらこの状況・・・ナニコレ怖い・・・
だって、ついさっきまで川が見えてたんだぞー！で次みたのが優佳
つて・・・

しかもラブレター！？

雄二

「え？ いきなりなんだ！？」

優佳

「コレは君の声じゃないか

雄二

「え？」

優佳

「まじ

- カチッ -

秀吉（雄二）

『優桂愛してる。俺が18歳になつたら籍を入れよう。だから俺と
結婚してくれ！』

え？俺こんなこと言つた覚えないぞ！？

雄二

「・・・（呆然）」

優佳

「そりだ、つかれてるんだね・・・また、明日来るよ」

-ガチヤ・・・・バタン-

雄
一

卷之三

明久・雄
二

?

第六問 次に田を覚ませば元に戻るから（後書き）

駄猫くくさて・・・雄一ザマア

拓也くく翔子ちゃんつてどこか抜けてるよなア・・・
駄猫くくそだね・・・直感はすぐだらうね、寂しきりつて当て
てたしww

拓也くく確かにな・・・

駄猫くくしかし、其処に惚れてるんだよね

拓也くくほつとけ

駄猫くくそれにしても良い感じにお一方集中力が散るでしょうねww

拓也くくそれBクラスン時の・・・

駄猫くくうん、そうだよ・・・姫路さんのワープレーターは無いからね

拓也くく・・・お前も考えて書いてんだな・・・

駄猫くくひさせご・・・次はBクラス戦です・・・では！

第七問 結局田を覚ましても何も変わらなかつた

「ハア・・・・ジオも、吉井明久だぜ」
「しつかしまア・・・・課題やらすに前回更新して結局一睡もせずに学校行つた駄猫が

性懲りもなく又やるうとしてやがるンだが、ジオ思つ?
TPPに負けてたまるかア・・・・ついつてたし・・・・其れもあンのか
ねエ?」

さて、昨日は疲れた・・・・何故か布団の中に翔子ちゃん入つてきて驚愕したりしてたら

一睡も出来なかつた・・・・今日Bクラスに挑もうつつってンのによ
オ・・・・

集中力が続かねエだろオなア・・・・

「ガラガラ」

明久

「・・・・おはよう雄二」

雄二

「・・・・ああ、おはよう明久」

明久

「・・・・どうしたの?寝てるよ?」

雄二

「・・・・いや、どこかの誰かのお陰で将来の約束が決行されかけてるんだよ

そのお陰で昨日は悪夢悪夢の連續で目の下に隈が出来ちまつぐら

いなんだよ・・・

明久

「・・・雄一も辛かつたんだね・・・僕もアレだよ?変な勘違いされで・・・」

-ガシツ-

秀吉

「・・・来て早々スゴイコトになつてあるの・・・」

康太

「・・・二人共FFFにやられかけてたけど今日ばかりは助けた、彼処まで籠れてるのにその上に暴行にいつたら・・・きっと明久は覺醒すると思う」

秀吉

「そうじゃの?」

・・・一人の優しさのお陰で目から汗が・・・
きつとアレだね・・・うんきつとそオいうことなんだ・・・
だから・・・

明久

「同情の田は止めて・・・」

雄一

「余計俺達が惨めになる・・・」

明久

「取り敢えず回復テストだね・・・」

- テスト終了まで cut ! -

雄
—

「さて皆、総合科目テスト」苦労だつた・・・午後はBクラスとの試験に突入する予定だが、

殺る気は充分か?』

うはア・・・全然テンションさがらねエなア・・・
最悪又火つけ直すのかア鬱だア・・・つて思つてたのによオ・・・
ま、コレが良いところなんだろオナなア・・・
唯のバカ共だけど・・・

雄
二

「今回の戦闘は敵を教室に押し込むことが重要になる・・・」
その為、開戦直後の渡り廊下戦は絶対に負ける訳にはいかない

Fクラス共

唯・・・寝てないから頭に響く・・・

言つたらモチベーショントガるから、わねエけどなア・・・

雄二

「前線部隊は姫路瑞希に指揮を取つてもひつ・・・野郎共、まつち
り死んで」こー!」

瑞希

「がんばつまつ」

Fクラス共

『『おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

・・・口コロマジカヤ駄目だなア・・・

本氣で氣にし始めたらめどじくせこからなア・・・

・キーンローンカーンローン・

明久

「よし!—行ぐよ!—田畠すはシステムスクだア!—!—!

康太

「(シンシン)・・・・・

明久

「どオしたの、康太？」

康太

「・・・俺は何をしたらいい？」

雄二

「康太、Bクラスの情報を頼む」

康太

「・・・Bクラス代表は根本恭一、基本的にBクラスの生徒達は根本に反感を抱いている」

明久

「なるほどね・・・あ、そオだ！」

康太・雄二

「？」

明久

「根本つてCクラス代表のヒステリックと付き合つて無かつたつけ

？」

雄二

「・・・と言つことはCクラスにも注意した方が良いのか・・・」

康太

「・・・情報を集めておく」

明久

「よろしく頼むよ」

康太

「（つべ）」

- シュバツ -

・・・ドンドン康太つて忍者化してねエカア？

最終的に裏の世界でもいきてけるよオな感じになるとかになつたら笑えねエゾオ？

BクラスA

「すまない・・・Bクラスの使者だが、代表はいるか？」

雄二

「俺がFクラスの代表だが？Bクラスが何か用か？」

BクラスA

「うちの代表が協定を結びたいと言つてゐるんだ、悪いがBクラスに来て貰えないだろうか？」

雄二

「了解だ、横田は俺に着いてくれ・・・明久・・・取り敢えず、クラスをみはつといってくれ」

明久

「オーケエ」

- 取り敢えず動きが有るまで・・・カツト！ -

明久
「ふアあ・・・眠イなア・・・」

・・・戸の向こうに一人程の気配を感じるな・・・
つつウコトは、秀吉達か、卑怯者達か・・・卑怯者なら・・・殺る
か・・・
鬱憤ばらしにでも・・・なア・・・
さて・・・誰だア？

ガラガラ

BクラスB

「・・・ココがFクラスだよな？」

明久

「そオだよオ・・・Bクラスの生徒クン？」

BクラスC

「つち・・・誰か居たのか・・・まあ、どうせFクラスのバカだし
関係ないか・・・」

明久

「・・・さてと・・・鉄人先生居るよなア？」

西村

「俺は西村だ・・・」

明久

「取り敢えず、Fクラス吉井明久がBクラス二人組に保健体育で勝負を挑む」

西村

「承認した」

明久

「試験召喚！！」

BクラスB・C

「「つち・・・試験召喚！！」」

保健体育

吉井明久 9999点

VS

BクラスB・C

500点

雄一

- 雄一帰還まで・・・カツト！ -

BクラスB・C
「・・・は？」

明久

「さつさと楽になれ」

- ズシャツ！ -

西村

「戦死者は補修！！」

明久

「残念でしたア・・・グッバイイ」

・・・多分コレで一段落だろオシ・・・寝るか！

「戻つたぞ・・・つて寝てやがる・・・」

秀吉

「・・・可愛い寝顔してあるの・・・」

康太

「・・・」

-パシヤパシヤパシヤ -

明久

「ン・・・ン・・・ふにゃアアア・・・」

秀吉

「つー?」

・・・あア・・・よオく寝たア・・・て秀吉のヤツ鼻なンで押さえ
てるンだア?

寝起きの明久くんは激しく口を開いています

秀吉

「ムツツリーーー・・・後で三枚買わせて貰うのじや」

康太

「・・・まいどあり」

明久

「・・・で？ビオなつたンだア？」

雄二

「しゃべり方・・・まあ、いいか・・・
4時までに決着がつかなかつたら戦況をそのままにして続ければ明
日午前9時に持ち越し

その間は試召戦争に関わる一切の行為を禁止する・・・つてな

明久

「なるほどねエ・・・多分裏あンビオ？『イイつけとけ』

. . . to be continue

第七問 結局田を覚ましても何も変わらなかつた（後書き）

駄猫くく今日は何とか寝れるかな・・・？

拓也くく昨日はしつこやつとけよ・・・

駄猫くく昨日はしつこやつとけよ・・・

拓也くく次回はBクラス戦後編かア？

駄猫くく出来たら今日のしつこ・・・

拓也くく止めとけバカ・・・

駄猫くくバカは無くない？

拓也くく・・・次回も頑張るよオだア・・・また見てやつてくれ

駄猫くくえ？無視！？

改めて「」で設定を

吉井明久

哀川拓也が憑依している。頭の良さは異常、能力は『一方通行』といふチート能力である。性格は原作の吉井明久に一方通行を足してそこから上条さんを足して、そこら辺に居る主人公属性を足して大体それぞれが吉井：一方通行：上条：主人公属性＝28：42：15：15ぐらい。原作と違い何かとしでかしているが『バカのお兄ちゃん』ではなく『スゴイお兄ちゃん』になっている。更に姫路瑞希と島田美波からの好意は有りません。駄猫的には明久（拓也）×翔子です。

霧島翔子

ヤンデレでは無く、原作とは違う明久（拓也）に好意を持つており、キスまではいつている。告白は常にしているも同じ。後、クーデレである。

坂本雄一

原作とは違い、霧島翔子には好意は持たれておらず、又違う天上院優佳という少女に好意を持たれている。色々ヒドイ目に遭つており、駄猫も軽い同情を覚えている。唯、反省も後悔もしていない。

天上院優佳

お嬢様である。ドジである。元はめだかボックスの安心院なじみをモデルにしていたのだが、長セリフを言わせたときに書いた自分も

どこか恐怖した。雄一に好意を持つておりヤンデレである。

木下秀吉

基本は原作通りだが、若干明久が混ざっていたり原作の明久ポジションの一人である。鼻血ではない、愛なのだ。Fクラスの良心。

土屋康太

皆大好きムツヅリーー。原作の明久ポジションの一人。基本は秀吉と同じく原作と変わりないが、明久の台詞を変わりに言つたりする。Fクラスの良心。

島田美波

基本変わりないが、明久に好意を持つていなし。・ツンデレボーテ。Fクラスの良心。

姫路瑞希

同じく基本変わりないが、明久に好意を持つていなし。Fクラスの良心。

成績

第一位	吉井明久
第二位	霧島翔子
第三位	姫路瑞希

第三位 天上院優佳

モテ度 - 男性 -

第一位 木下秀吉（男女両方に人気）

第二位 吉井明久

第三位 平賀

第四位 坂本雄二

モテ度 - 女性 -

第一位 霧島翔子

第二位 天上院優佳

第三位 姫路瑞希

第四位

木下優子（秀吉の可能性が・・・？）

改めて「」で設定を（後書き）

拓也くくほオ・・・

駄猫くくこんな感じだね。雄二ももてるんだぜ？

拓也くく秀吉・・・男からのも合わせて・・・？

駄猫くく実質テメエが第一位だよ

拓也くくふウむ・・・

駄猫くくというわけで、次回はBクラス戦後半。予想外な人が無双です

拓也くく又見てくれよ

駄猫くくでは！

第八問 パワプロのサクセス途中で止めたままだった！？

どオも、吉井明久だぜエ
てか、今日の前で秀吉が無双してンだが・・・どういうコトなンだ
ア？

・・・今まで生きていて見たもののなかで一番スゲエ迫力なンだが
ア・・・

ヤベエンだよ・・・えエと簡単に言つたら

- 1・雄二俺の忠告ガン無視でCクラスと協定結びに逝く
- 2・Bクラス共がなンやかンやで攻めてくる
- 3・俺が血液逆流的な何かで殺つてたンだが、倒した相手の一人（男）の懐から秀吉へのラブレター
- 4・秀吉ブチギレ、バーサーカも吃驚
てな訳で、取り敢えず現実逃避終了

秀吉

「アハハハハハハハハ、私は女じやないってンだよオ・・・
アンタ達全員ブ・チ・ゴ・ロ・シ・確・定・ね！」

明久

「ねエ、雄二・・・」

雄二

「言つんじゃない・・・」

明久

「ねエ、ムツツリー・・・」

康太

「・・・ストレスが溜まっていたんだな・・・」

明久

「これからはもっと・・・ちやんとしないとね・・・」

雄二

「ああ・・・」

秀吉

「オラオラ！－ハリイハリイハリイ！－もっと良い声で鳴きヤガレ
！」

三人

「・・・ストレス溜めて『ゴメン』」

根本

「くつ、クソがアアアア！」

科学

木下秀吉 562点

V S

根本恭二 252点

秀吉

「一度と私の前にでてくんな……」のキノコが！」

根本

「ガフ……」

明久

「アハハ……」

完全に原作から離れたんだろオな……
俺の某騎士王並の感が言つてるからな……ま、結果オーライって
コトで……
あ、因みに秀吉の腕輪は原子崩しです、どうも有り難うございました

明久

「さて……負け組代表を……」

雄一

「それじゃ嬉し恥ずかし戦後対談といくか」

根本

「……」

雄二

「本来なら設備を明け渡してもいい、お前らには素敵な卓球台をプレゼントするところだが、
特別に免除してやらんでもない」

・・・何考えてやがんだア？・・無いとは思つが女装とかかア？
もし、そオだとしたら腹抱えて笑い転げるだろオなア・・・
ま、其れより何より先ずコイツ達黙らせるかア

明久

「落ち着いて、皆、前にも言つたけど僕達の目標はAクラスだよ?
ここがゴールじゃない
ここはあくまで通過点なんだ・・・」

雄二

「明久の言つ通りだ、だから、Bクラスが条件を呑めば解放してや
るつかと思つ」

根本

「・・・条件はなんだ？」

それについても、またか4時で終わるとか・・・本氣で吃驚だゼ?
全くよオ・・・
俺の出番殆どねじやねか・・・
ま、ジオセ今度は俺が無双・・・

無双しません。つぎの試合戦争までは。

・・・ストレス溜まるゼ?全くよオ・・・
ま、帰つてパワプロでもしどくかア・・・有る意味あれも無双ゲだ
しなア・・・

雄二

「条件?それはお前だよ、負け組み代表さん」

根本

「俺、だと？」

雄二

「ああ、お前には散々好き勝手やつてもらつたし、正直去年から田
障りだつたんだよな」

そオだなア・・・あン時だつて・・・アイツの所為で・・・

雄一

「そこでお前らBクラスに特別チャンスだ」

・・・何がくるンだア？

雄二

「Aクラスに行って、試合戦争の準備ができていると宣言して来い
そうすれば今回は設備については見逃してやってもいい
ただし、宣戦布告はするな・・・すると戦争は避けられないからな
あくまでも戦争の意思と準備があるとだけ伝えるんだ」

・・・えエ・・・もつと何か本気でバッジゲームさせよオゼ?

根本

「・・・それだけでいいのか？」

雄一

「ああ、Bクラス代表がコレを着ていった通りに行動したら見逃そ
う」

明久

「ブハツ・・・ギャハハハハハハハ・・・良いね良いね最ッ高だね

エ 雄二「イ・・・

本氣で、真剣に最高だねエー！」

雄二

「だろ？」

根本

「ば、馬鹿なこと言つたなー」の俺がそんなふざけたことを・・・

B クラス A・B・C・D

『B クラス生徒全員で必ず実行させよ!』

B クラス E・F・G・H

『任せて！必ずやらせるからー。』

B クラス I・J・K・L

『それだけで教室を守れるのなら、やらない手はないなー！』

明久

「ンじゃ、決定だね？」

雄二

「ククク」

根本

「つぐーよ、寄るなー変態ーぐふうつー」

B クラス M

「とりあえず黙らせました

うわアお・・・変わり身早エえなア・・・
ま、面白いからいインだけよオ・・・でもやっぱ・・・ククク

-取り敢えず着替え完了、撮影までカット！-

明久

「じゃアねエ・・・負け犬代表？」

あア・・・笑い転げたわ・・・
だつて、写真撮影彼女の前でだぜ？腹いてエ・・・画面の向こうで
m9つしてるのが頭に浮かぶ
ヒヤハ・・・おオ・・・思い出し笑いが・・・

明久

「ンじゃ、今日は帰らせてもらひつねエ」

雄二

「・・・その、なんだ？俺を今日だけお前んちに泊めてくれ！」

明久

「ン？なんで・・・ってあア・・・

なら、おオい、康太ア、秀吉イ・・・今日僕ン家に泊まりに来な

い
?」

康太

「・・・分かつた、行くかせて貰う」

秀吉

「わかつたのじゃ！」

. . . to be continue

第八問 パワプロのサクセス途中で止めたままだつた！？（後書き）

拓也 << ハイハイワロスワロス

駄猫くくま 今日もちゃんと学校行きていたし、いいじゃなイカ!!

次回は...
次回は...
次回は...
次回は...

馬猿マヨウ

扶桑文庫

馬鹿マフク へん おはなし おもてなし

お原したから部屋の隣で勝抱えておめで
たすくいや二ツんでめ泣かないでくれ

第九問 HELP ME AKIHISA!!!!

はい、どオもオ

やりたいコトはやつたモン勝ちだろオけど勉強まともにして無くつて残らされた駄猫にm⁹している

吉井明久だぜエ

ハハハザマア
さて、と

明久

「ねエねエ・・・いきなりだけどゲームしない?」

雄二

「何すんだ?」

康太

「・・・(スツ)」

明久

「それは・・・え?コレやれって?ま、まア分かつたよ」

-カチツ -

【ときめき学園メモリアル】

明久

「・・・え?」

雄二

「ギャルゲじやねえか・・・」

秀吉

「・・・何故かフラグのように感じじるんじゃが・・・」

康太

「（グツ）」

明久

「・・・さ・・・かもと・・・ゆう・・・じ・・・つと」

雄二

「何してやがるー?」

明久

「よしー。」

雄二

「明久貴様アアアアーー!」

康太

「・・・はじまつたぞ」

秀吉

「・・・本当にワクワクドキドキじゃな・・・」

-ガチヤン-

翔子

「・・・お邪魔します」

明久

「雄一、バス」

雄一

「つち・・・」

明久

「翔子ちゃんお帰り」

翔子

「・・・何してるの?」

明久

「雄一がギャルゲ・・・で、今日は友達つれて来てるから」

翔子

「・・・明久がやつてないならい」

よし、俺のフラグは回避成功つとオ・・・

後は天上院がきて雄一がヽ(^〇^)ゝになるかどオカだなア・・・
あア・・・楽しみだア・・・

雄一

「明久あ、この選択肢どちらにする?」

明久

「『気軽に話しかけんな』でb」

康太

「・・・俺もそう言つていたところだ」

秀吉

「いやいや、可笑しいじゃろー?お主達!?!?普通好感度が上がりそつた選択肢を選ぶモノじゃろー?ギャルゲといつモノは!?!?」

明久

「最初から話しかけてくるのは尻軽だからでしょ?ビッシュビッシュソビッシュってね」

秀吉

「そのネタは原作が違うのじゃーと云つより前回わしに迷惑かけない云々言つたじゃないかの!?!?」

康太

「・・・前回はぜんく・・・スミマセン!テシタ」

明久

「・・・その顔はどうく・・・スミマセン!テシタ」

雄二

「・・・え?俺までのく・・・スミマセン!テシタ」

秀吉

「よひしー」

・・・秀吉は本気でキレさせちや駄目だなア・・・愉快なオブジェにされちまつぜエ・・・全くよオ・・・一応反射は使えるから有り難いゼエ・・・

世界の補正かは知らねエが・・・40分しか使えないンだよなア・・・

・能力

全くよオ・・・変な縛りつけやがつて・・・

翔子

「・・・」飯出来た

明久

「センキュー、了解したよ・・・てな訳で旨いくよー」

このときは未だ知らなかつた・・・

調子に乗つていた俺たちは

雄一が・・・

明久

「来たよ・・・え? 天上院・・・?」

優佳

「お邪魔してよ・・・其れより雄一・・・君が帰つてくるのをどうだけ待つたと思ってるんだい? しかも聞いたところによるとギヤルゲなるものをしていたらしいぢやないか・・・え? どういうコトなんだい? 僕というものが有りながら一次元にいくのかい? それに

雄一の部屋には口リイな薄い本があつたよ？どういうことだい？僕
みたいなのじや駄目なのかい？胸でも何でもそき落とそうか？・・・
あ、そうだ・・・逃げられないよつて監禁すれば・・・

雄一

「・・・（ガタガタガタガタ）」

明久

「こ」から先は駄目だよオ・・・
ま、僕が今日遊びに来ない？つて誘ったわけだし、ギャルゲやら
せたの僕だし・・・
ま、ギャルゲ持つてきた諸悪の根源は其処にいるムツツリな訳だ
けど

康太

「ム、ムツツリなんかじや・・・」

明久

「取り敢えず、飯食べよう」

本当に監禁されかけたコトを・・・

第九問 HELP ME AKIHISAAAAAA!! (後書き)

駄猫くくテスト一週間前也

拓也くく大丈夫なのかア?

駄猫くく何で平田更新できないと思う?

毎日4～5時間やつてるんだぜ!

拓也くく・・・ま、がんばりやがれ・・・

駄猫くくてな訳で、今回も読んでいただき有り難うございました

次回もよろしくお願いします! では!

拓也くくじゃアなア

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9133v/>

哀川くんの吉井明久戦記

2011年11月26日19時50分発行